

2024.04.24 **実施報告**

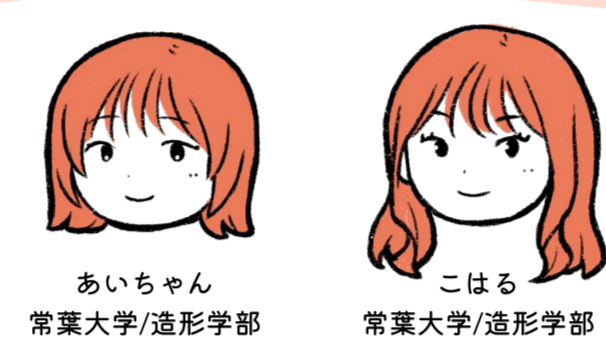
【資材制作②】つくば研究センターに訪問した学生の声を実際に聞いてみた！



2024年3月1日に2つめの体験機会「サイエンス・研究：研究の最先端を学ぶ」として、Innovation for NEW HOPEの運営会社であるアステラス製薬のつくば研究センターを訪問した。つくば研究センターでは、よりよくすりの候補を効率よく見つけるために「人（研究者）×AI×ロボット」が相互補充・協働している。資材制作での気づきを得るべく、Innovation for NEW HOPEの学生アンバサダーである大学生7名が参加した。

01.記事をつくったいま思うこと

- 研究員さんのお話を聞いたことで、さまざまな専門家や分野の違う人々がタッグを組んで最先端医療に挑んでいることを知った。
- 研究員さんのお話を聞いたことで、凄まじい量のトライ&エラーを繰り返し、年単位で動く創業の現場のリアルに驚いた。
- 研究センターを見学したことで、AIやテクノロジーが研究を支え、さらに研究員さんの創造性を高めることに寄与している価値を知った。



Innovation for NEW HOPE×学生の新企画「市民の疑問に答える資材制作プログラム」において、最先端の治療法に関わる現場に行き、その体験を通じて生まれた「学生の理解、関心、疑問」をまとめたwebページの制作に取り組んだ私たち。つくば研究センターを見学して得た気づきは大きく3つあると考えた。

02.「人×AI×ロボットが協働」する研究所の見学（10:50～）

あいちゃん 常葉大学/造形学部: AIとロボットにより単純作業を効率したら、人はクリエイティブな仕事が増えるのかなと思います。

こはる 常葉大学/造形学部: 世間でロボット化・AI化と言われても実感はなかったので、アステラスつくばが思っていたよりずっと最先端の技術を使って研究をされていて驚きました！

はるか 名城大学/薬学部: 細胞の培養は、非常に難しいということを感じました...iPS細胞の培養は特に難しいので、Maholo(まほろ)のような双腕のロボットを用いることにより多くの細胞を生み出すことができるんですね。

実際にロボットが作業している研究所の現場を見学した。薬の研究においてAIやテクノロジーが重要な役割を担っていることや、薬を生み出すためには想像以上の時間がかかることなど、思ってもみなかった驚きがあった。

03.細胞医療・遺伝子医療を専門とする研究員との対話（13:20～）

かにちゃん 名城大学/薬学部: 薬学分野の方だけでなくほかの分野の専門家の方が多くいて、協働していたのが印象的でした。様々な分野の知識・技術を集約しないと、創薬できないことを実感しました。

はるか 名城大学/法学部: お手本のない中、創薬研究をしているということに驚きです...!

こはる 常葉大学/造形学部: 自分が学んでいる学問が他の学問と少しずつつながりを持っているように感じられて、いろんな学問の知恵が集約されて技術や人々の生活につながっていることを実感できました！

はらーい 慶應義塾大学/総合政策学部: 研究員さんが、1000人が10年仕事して新薬が2個出れば良いと言っていたけれど、その数字に驚きました...。毎年新しい薬を出せたらそれはすごいことなんだ...。トライアンドエラーの体感ですね...。

細胞医療・遺伝子医療を専門とするお二人の研究員の方から、研究への想いやモチベーション、苦悩ややりがいなど貴重なお話をたくさん聞くことができた。

©Innovation for NEW HOPE, 2024

関連記事

活動一覧はこちら

- メディア掲載**
ファームテックジャパン2024年5月号への当プロジェクト活動掲載のお知らせ
2024.05.31
- メンバー活動**
第23回日本再生医療学会総会@新潟～発起人の活躍紹介～
2024.05.22
- 告知**
2024年5月23日開催 日本医療政策機構主催「難病の日」シンポジウムのお知らせ
2024.05.14
- 告知**
2024年5月19日（日）開催「5月23日は難病の日」記念イベントのお知らせ 主催：...
2024.05.13
- メンバー活動**
小坂氏の取り組み紹介～第4回小児製剤研究会での講演～
2024.04.26

プロジェクトへのお問い合わせはこちら
お問い合わせフォームへ

シェアはこちら

